

マジック・ランタン 光と影の映像史

The Magic Lantern: A Short History of Light and Shadow

2018年8月14日（火）－10月14日（日）



作者不詳 《マジック・ランタンのトレードカード》
19世紀 フランス リトグラフ 東京都写真美術館蔵

近年注目を集める、プロジェクション・マッピングやパブリック・ビューイングなど、人々がひとつの映像を一緒に見るという行為は、いつ、どのように生まれ、我々の社会に定着するようになったのでしょうか。スクリーンや壁に映像を投影する「プロジェクション」という行為は、映画の発明より遡ることはるか以前に、マジック・ランタンと呼ばれる現代のプロジェクターの原型にあたる機構の発明により、世界中に広がりました。本展では映像の歴史を、プロジェクションの歴史という視点から見直し、映像史の新たな側面を照らし出すことを試みます。

東京都写真美術館が所蔵する初期映像史に関する豊富なコレクションの中には、マジック・ランタンや映画の誕生以前に生まれた、数々の映像装置や資料が含まれます。光と影がつくり出す美しく不思議な世界は、日本では、写し絵や錦影絵、幻燈という名前で古くから親しまれてきました。光と影によってもたらされる映像の歴史を、マジック・ランタンをはじめとする当館コレクションを中心に紹介いたします。また、近年「視覚文化史研究」や「メディア考古学」と呼ばれ注目をあつめる光学機器や視覚装置の歴史について、最新の研究成果をわかりやすく紹介し、映像文化の過去を振り返ることで、現代の映像表現や映像文化を考察します。

展示構成 (予定)

1 マジック・ランタンの誕生 / The Birth of the Magic Lantern

マジック・ランタンは、17世紀の半ばにオランダのクリスティアン・ホイヘンスによって発明された投影装置です。マジック・ランタンは18世紀を通じ徐々にヨーロッパ各地に広がり、その用途も顕微鏡や望遠鏡と並ぶ学術的な使用目的から、興行師や旅芸人による娯楽産業への利用まで幅広く、「プロジェクション」という実践を人々に普及・定着する大きな役割を果たしました。18世紀半ばにドイツやフランスで流行した影絵(芝居)も、マジック・ランタンの人気を後押しします。ここではマジック・ランタンの流行を準備することとなった、影絵とファンタスマゴリア*を中心に、光と影による映像文化をご紹介します。

*ファンタスマゴリア・・・18世紀末に登場した、マジック・ランタンを用いたホラー・ショー。専用のランタン「ファンタスコープ」を使用し、観客に見えない場所から恐ろしい幽霊・亡霊を投影する。フランスのパリを中心に爆発的に流行したことが知られている。



左：ウジェーヌ・シャルル・フランソワ・ゲラルド
《旅人たち #18：魔女の穴（黒い森）での朝食》1854年 フランス
リトグラフ、手彩色

右：「ファンタスコープ・モルテニ」1830-50年 フランス

※世界に4点のみ現存するうちの1点を展示します

2 マジック・ランタンの流行 / Magic Lantern Mania



作者不詳「マジック・ランタンのトレード・カード」
19世紀、フランス、リトグラフ

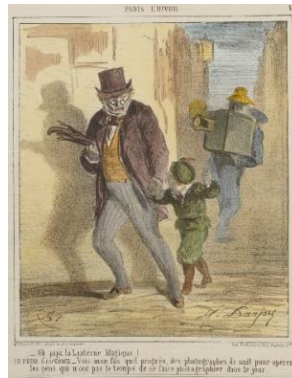
19世紀に入るとマジック・ランタンの人気は一層高まり、一般家庭でも購入・操作できるほど安価かつ簡易な構造の機器が出回るようになります。また、学術的な場面や興行での使用においても、レンズや光源の改良、シャッター機能等の向上により、投影装置としての精度が高まってきました。ここでは、「科学の眼」、「興行」、「家庭のあそび」とセクションを分け、さまざまな用途と形態のマジック・ランタンをご紹介します。



1



2



3



4



5



6

- 1: 「バイユニアル・マジック・ランタン」
1880-1890年頃 イギリス 東京都写真美術館蔵
- 2: カルロ・ヴァーネット《オルガン奏者、マジック・ランタン、驚異の部屋》
1820年頃 リトグラフ 東京都写真美術館蔵
- 3: アルフレッド・ダージョイ《パリの冬》
『ル・シャリヴァリ』より 1846年頃
フランス リトグラフ 東京都写真美術館蔵
- 4: 「ランパスコープ・ブル」 1880年頃
フランス 東京都写真美術館蔵
- 5: 「ランテルヌ・リシュ」 1880年頃
フランス 東京都写真美術館蔵
- 6: 「ランパドフォル・ブル」 1880年頃
フランス 東京都写真美術館蔵

3 日本のマジック・ランタン / Magic Lanterns in Japan



1



2



3



4

- 1: 楊洲周延《幻燈写心鏡 勸進帳》1890年 個人蔵
- 2: 「種板（写し絵のスライド）」 19世紀頃 東京都写真美術館蔵
- 3: 「風呂（写し絵のプロジェクター）」 19世紀頃 東京都写真美術館蔵
- 4: 「幻燈機（箱・種板付き）」 19世紀頃 東京都写真美術館蔵

マジック・ランタンは、江戸時代に日本に渡来したことがわかっています。日本においては当初、見世物や寄席文化と親和性が高く、オランダ渡来の珍しい興行として楽しまれ、国内各地で独自の発展を遂げていきます。渡来当初は「影絵燈籠」や「現妖鏡」といったさまざまな名前と呼ばれ、プロジェクションをおこなう機器をどのように呼びならわすべきか、既存の文化を基に、人々が頭を捻り様々な呼称を生みだしたことがうかがえます。その後、日本各地で呼び名は異なりますが、江戸(関東)では「写し絵」、上方(関西)では「錦影絵」という名前で定着しました。また、明治期に入ると、政府主導により最新の教育機器として、マジック・ランタンは「幻燈」という名前を与えられ、新たに普及が進められていきました。幕末・明治期の浮世絵師・楊洲周延による《幻燈写心競 勸進帳》では、若い女性が心に抱く役者へ思慕が、当時流行していた幻燈の映すイメージに重ねて描かれています。マジック・ランタンが長い年月や場所を超えて普及していくなかで、その映像技術が、いつの時代も人の情念に強く結びついているものであったことがわかります。

4 スライド / Slides

マジック・ランタンは通常、ガラス板に描かれた絵を投影します。東京都写真美術館のコレクションには、ファンタスマゴリアに用いられた幽霊や天使のスライドや、仕掛けによって絵が動くスライド、絵ではなく写真が焼き付けられたスライドなど、多種多様なスライドを所蔵しています。スライドによっては、文字が書き込まれ、物語のストーリーをみるものに伝え、また弁士やパフォーマーによって読み上げられるといった、上映形態を想像させるスライドも含まれます。



- 1, 2:「クロマトロープと噴水の手回し式スライド」1880年頃 スコットランド 東京都写真美術館蔵
- 3:「ファンタスマゴリアのスライド」1830-50年 フランス 東京都写真美術館蔵
- 4:「クロマトロープ」19世紀 ガラスに手彩色、金属枠

5 マジック・ランタン以後 / After the Magic Lantern

マジック・ランタンが発明されてから約 200 年後、リュミエール兄弟によってシネマトグラフが発明されます。映画はマジック・ランタンが創り出したプロジェクション文化の、新たな形態であったといえるでしょう。映画発明当時の作品・資料を展示するとともに、マジック・ランタンを現代における映像表現と結び付け、現代美術家・小金沢健人によるプロジェクションを用いた作品を紹介します。

出品点数 250 点(予定)

本展のみどころ

「みんなで見ること」のはじまりはマジック・ランタンにあり

日常的に接する機会のある映画や、パブリック・ビューイング、昨今大流行したプロジェクション・マッピングなどは、同じ空間に集まった多くの人々が同時に映像(イメージ)による体験を共有するものです。これらの映像体験の起源は、17世紀半ばの「マジック・ランタン」の発明に遡ります。映画の発明よりもはるか昔に発明された「みんなで視覚体験を共有する」ための技術は、時代のニーズに応えながら、今日まで発展し続けています。本展はプロジェクション・マッピングの原点であるマジック・ランタンに焦点をあて、映像文化の発展に迫ります。

日本随一のマジック・ランタン・コレクションで、写真と映像の交差点を知る

光学レンズの発明とともに発展したマジック・ランタンは、「内から外」に向けて光を映し出し、一方でカメラの原型にあたるカメラオブスクラは「外から内」に映しだすことを基本原理としています。マジック・ランタンの発展途上で、外側に光を放つ「映像」と、内側に光を集める「写真」が分化し、独自の技術発展を遂げましたが、元は同じ「光と影による芸術」であるといえます。本展は当館が写真と映像の専門美術館として、総合開館時より重点的に収集してきた初期映像史に関する貴重なコレクションをご紹介します。日本随一の規模を誇るマジック・ランタンとそのスライド(種板)の数々をお楽しみください。最新の研究で明らかになった知られざる映像史も紐解きます。

プロジェクション今昔 — 気鋭アーティスト・小金沢健人の新作登場！

本展ではアジア・アート・アワード 2018 で大賞を受賞した気鋭のアーティスト・小金沢健人による新作を出品します。最新技術を使ったプロジェクション・マッピングの現在を体現するインスタレーションにご注目下さい。また、関連企画として、日本のアニメーションの原型といわれる「江戸写し絵」を現代に再現する、公演「納涼江戸写し絵の夕べ」と、「写し絵オープンワークショップ」を開催します。脈々と続くプロジェクションの歴史を体感する本展の目玉として、江戸時代の写し絵あそびを体験できる貴重な機会をお見逃しなく！



参考図版

小金沢健人《速度の落書き》2008年
ビデオ・インスタレーション、サイズ可変 作家蔵

関連イベント

アーティストトーク

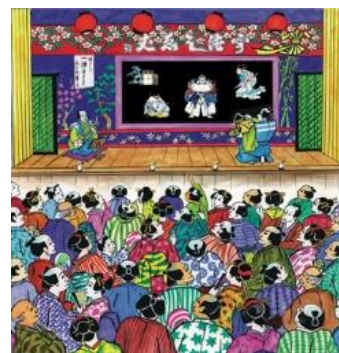
日時 | 2018年8月18日(土) 14:00-15:00

出演 | 小金沢健人(出品作家)

定員 | 50名 ※先着順、立ち見可

会場 | 東京都写真美術館 2階ロビー

参加費 | 無料



「江戸写し絵」社中旗揚げ公演「納涼江戸写し絵の夕べ」

日時 | 2018年8月24日(金) 19:00-20:00

定員 | 50名 ※先着順、立ち見可

会場 | 東京都写真美術館 2F ロビー

参加費 | 無料



「江戸写し絵」社中旗揚げ公演 参考図版

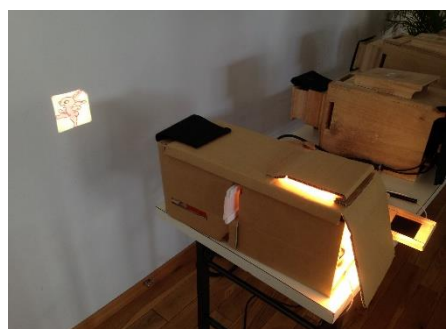
「江戸写し絵」社中による写し絵オープンワークショップ

日時 | 2018年9月1日(土) 14:00-17:00 [予定]

会場 | 東京都写真美術館 1F スタジオ

対象 | どなたでもご参加いただけます。

参加費 | 詳細はホームページにてお知らせいたします。



マジック・ランタンをめぐるシンポジウム

日時 | 2018年9月29日(土) 14:30-16:30 [14:00 開場予定]

出演 | 草原真知子(メディア文化論研究者)、松本夏樹(映像文化史家)、岩田託子(中京大学教授)

定員 | 190名

会場 | 東京都写真美術館 1F ホール

参加費 | 無料

※整理番号順入場、自由席

※当日10時より1F 総合受付にて整理券を配布します。



「江戸写し絵」オープンワークショップ 参考図版

展覧会担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1・第3金曜日 14:00 より、および、サマーナイトミュージアム期間中の8月31日(金) 18:10 より、担当学芸員による展示解説を行います。

展覧会チケット(当日消印)をご持参のうえ、地下1階展示室入口にお集まりください。

たのしむ、もらう「TOP スタンプラリー」

トップミュージアムでは、3つの展覧会をたのしんで、TOP オリジナルグッズがもらえるスタンプラリーを開催中です。対象の展覧会を観覧してスタンプを集めると、オリジナルグッズがもらえます。

<対象展覧会>

TOP コレクション たのしむ、まなぶ「イントゥ・ザ・ピクチャーズ」展 [開催期間:8月5日(日)まで]

TOP コレクション たのしむ、まなぶ「夢のかけら」展 [開催期間 2018年8月11日(土・祝)~11月4日(日)]

映像展「マジック・ランタン 光と影の映像史」展 [開催期間 2018年8月14日(火)~10月14日(日)]

*スタンプラリー開催期間 2018年5月12日(土)~11月4日(日)

*スタンプカード配布期間 2018年5月12日(土)~10月14日(日)

*グッズ交換期間 2018年8月11日(土・祝)~11月4日(日)



開催概要

主催:東京都 東京都写真美術館、日本経済新聞社

協賛:凸版印刷株式会社

会期:2018(平成30)年8月14日(火)~10月14日(日)[55日間]

会場:東京都写真美術館 地下1階展示室

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

Tel 03-3280-0099 Fax 03-3280-0033 <http://topmuseum.jp>

開館時間:10:00~18:00 *入館は閉館30分前まで[木・金は20:00まで。ただし、8月16日(木)、17日(金)、23日(木)、24日(金)、30日(木)、31日(金)は、サマーナイトミュージアム期間中のため21:00まで開館]

休館日:毎週月曜日(9月17日(月・祝)、24日(月・振)、10月1日(月・都民の日)、10月8日(月・祝)は開館、9月18日(火)、25日(火)、10月9日(火)は休館)

観覧料:一般 500(400)円/学生 400(320)円/中高生・65歳以上 250(200)円

※()は20名以上の団体料金 ※第3水曜日は65歳以上無料 ※小学生以下、都内在住・在学の中学生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※ただし、8月16日(木)~8月31日(金)の木・金曜日 18:00-21:00 はサマーナイトミュージアム割引(学生・中高生無料/一般・65歳以上は団体料金) *各種割引の併用はできません

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版（参考図版を除く）をデータにてご用意しております。
掲載をご希望の際は、下記広報担当まで連絡ください。掲載点数が1点の場合は、展覧会メインイメージとして、本リリース1ページ目の下記図版をお薦めいたします。

作者不詳《マジック・ランタンのトレード・カード》19世紀 フランス リトグラフ 東京都写真美術館蔵

そのほか A4 チラシのイメージのご用意もございます。どうぞお申し付けください。

このリリースに掲載されている作品のうち、記載のないものは東京都写真美術館蔵です。
図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。
図版のトリミングはできません。

東京都写真美術館 事業企画課

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

Tel 03-3280-0034 Fax 03-3280-0033 <http://topmuseum.jp>

展覧会担当：遠藤みゆき m.endo@topmuseum.jp

岡村恵子 k.okamura@topmuseum.jp 田坂博子 h.tasaka@topmuseum.jp

広報担当：久代明子、平澤綾乃、前原貴子 press-info@topmuseum.jp